

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290600143		
法人名	有限会社ハーベストライフ		
事業所名	グループホームみのり天神原		
所在地	静岡県三島市加茂川町4082番地の3		
自己評価作成日	令和5年1月18日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2290600143-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念『みのりある最良の生活を収獲する』を掲げ、一人ひとりの個性や価値観を尊重し「役割や出番」を発揮出来る場面作りを心がけている。開設から2年が経過。コロナ禍での生活で従来のグループホームの自由度や柔軟な対応には至らないが、感染状況を見ながら対策をとり外出の機会やご家族、地域との交流など取り組んでいる。法人内研修も定期的に開催され、認知症ケアや高齢者虐待などの学ぶ機会も多い。外部研修への参加も実施し職員の質の向上を目指している。地域との交流も地域包括支援センターや自治会と協力のもと、実施の機会を設けている。

法人理念の達成に向け、月例管理者会議と事業所ミーティング・職員研修・職員面談等にて、理念の確認や諸課題の解決を図っている。開設以来、コロナ禍による行動制限がある中でも地域との関わりを大切に考え、感染状況をみながら地域交流を継続している。静岡県GH連絡会にて「認知症高齢者の社会参加」に関する講演を行い、事業所の地域連携の取り組みを紹介した。運営推進会議は書面開催で実施し、事業所の状況を報告し、意見を聴きとっている。屋根にソーラー発電システムを敷設して、停電時の電源確保の設備を整えている。隣接する小規模多機能施設には調理専門職員が配置され、美味しい食事の提供に注力している。利用者・家族の意向を聴きながら、利用者の能力に応じた食事の準備やレクリエーション、外出支援を行い、事業所での暮らしを楽しむ取り組みを実践している。感染防止対策として、常時換気や「1ケア1消毒」を行い、安全で清潔な環境作りを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みのりある最良の生活を収穫する」を運営理念とし、ひとりひとりの個性と価値観を尊重しながら役割や出番を発揮出来る場面を提供する様努めている。	法人は三島市内にGH、通所介護、居宅サービス事業所を運営し、月例管理者会議で情報を共有している。管理者・職員は、月1回「事業所ミーティング」を行い、理念の確認や諸問題について話し合いを行い、事業所運営に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染状況を見ながら今年度は、地域の伝統、梯子乗りや子供会のしやぎりなど交流場面を持つ事が出来た。地域包括支援センター主催の介護予防教室を施設の交流室を会場にし地域の方と共に参加する事が出来た。	コロナ禍の中、地域との関わりを断ち切らないように、地域行事への参加に柔軟に対応している。感染状況をみながら、広い駐車場を活用して、地域の伝統行事や子供会等との交流を継続している。 コロナ後を見据えて、認知症カフェの再開等を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で認知症に関わる相談会や、講話、若年性認知症の方の個別会議への参加。また若年性認知症の方の活動の場として施設を開放している。会社主催の認知症カフェも実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において顔を合わせて会議を開催する機会が少ないが、書面で報告を実施している。	コロナ禍の折り、運営推進会議は2か月に1回書面にて開催している。議事録を、行政、地域包括支援センター、自治会長等運営委員に配布して報告を行うと共に、意見の聴取に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	三島市内のグループホーム連絡会が3ヶ月に一度開催され市担当者と情報共有を行う事がある。また運営推進会議、事故報告、各相談事項など話をする機会がある。	運営推進会議議事録の持参や三島市GH連絡会参加時に、行政や他GH事業所との情報共有・意見交換を図っている。管理者は、静岡県GH連絡会にて「認知症高齢者の社会参加」に関する講演を行い、事業所の地域連携の取り組みを紹介した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修や、高齢者虐待など研修を実施しており職員も理解している。玄関や、居室の窓などは自由に開閉出来るようになっている。	身体拘束適正化委員会は3か月に1回開催し、毎月の事業所ミーティングにて職員研修を実施し、身体拘束の適正化の理解を深めている。管理者は職員の対応について、都度注意すると共に、朝・夕のミーティングにて情報共有に努めている。	

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束の研修や、高齢者虐待など研修を実施しており自身や、職場で不適切ケアが行われていないか振り返る機会を設けている。不適切なケアのチェックリストを活用している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ各制度の提案を行っている。職員の学習は外部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、日々の中でのご意見、ご要望に付いてはご家族、ご利用者から頂いており事業所内、社内管理者会議で共有。改善に努めている。	コロナ禍の中でも、ドライブスルー面会やSNS等を活用した面会など、家族からの意見を反映した対応を実践している。法人の月例管理者会議にて、各事業所家族からの意見や要望の共有を図り、改善に向け意見交換を行っている。	家族との関わりは事業所にとって最重要でもあることから、感染防止対策として交流制限のある中でも、家族意見の聴き取り方法となる「家族満足度アンケート」実施など、積極的な働き掛けを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に代表者、管理者と話をする機会があり、職員の意見を聞く機会が多い。必要に応じて申し送り、ミーティング、面談で意見を得た内容は管理者会議で議題として話し合っている。	事業所はキャリアパス制度を導入し、年2回の人事考課面談に結び付けている。管理者は常に職員とのコミュニケーションを心掛け、得た情報は管理者会議や事業所ミーティングで取り上げ、事業所運営に反映する仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的にキャリアパスで評価している。個々のキャリア形成にあつた教育も実施している。家庭の状況や、心身の状態に応じ労働条件や勤務形態についても配慮、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。未経験職員も多いため、必要に応じ外部実務者研修や、認知症介護実践者研修への参加、社内研修の実施。必要に応じ実技など個別に指導している。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加により交流機会はある。今の時代ではZOOMなどでオンライン上の研修にも参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の選択をする際は不安を抱えている方が多い。その様な際は日中の施設利用体験をし、施設内の様子や、雰囲気を感じて納得して入所される機会を提供する事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談、施設見学でご家族のお話を伺い不安なこと、不明な事、これまでのお困りごとなど聞く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の選択で施設見学に来られた際には、ご自宅での状況とお困りの場面などお話を伺いながら在宅サービスや、小規模多機能、他入所施設のサービス形態など提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご自分で行っていただくようにし、自発的な行動も見守る様に心がけている。職員の仕事の手伝いをして頂く事もあり、ご利用者に協力を求める場面も日常的にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状況によるが、入浴支援などご家族に協力頂いている方もいる。外出支援や買い物代行等ご利用者が必要とされる場面ではご家族の協力を頂いている。ご利用者の気持ちが不安な際は、電話や面会を行い支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において機会は減っているが、馴染みの人が施設を訪れてくださる事、電話交流を図る機会、スタッフとお墓参りに出かける機会もある。	コロナ禍の中でも感染防止に注意を払いながら、馴染みの人や場所への関係継続に努めている。移動販売利用、季節毎の地域行事へ参加、お墓参りやドライブスルー面会、生家訪問等、家族の協力を得ながら、外出支援を実践している。	

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の交流はご本人の意思により1階2階の制限無く自由に行き来して親しい関係作りを行うよう支援している。利用者間での助け合いの場面もある。席の場所など固定化せずにその時々で場所を過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じ相談、支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりその時々での思いや、意向に添えるよう会話や、状況から意向を把握する様に努めている。ミーティングではひとりひとりの意向や、生活状況など職員間で共有する機会を設けている。	入居希望者へは体験入居の期間を設けて、利用者・家族の意向や要望、自立支援に向けた情報の収集を行っている。入居後は、事業所ミーティングにて都度職員間の意見交換を図り、利用者・家族の意向を介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの実施、ご家族やご本人、他サービス事業所などから情報を収集している。入所後もご本人やご家族との会話の中から情報が膨らむ。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。朝、夕の申し送り、業務ミーティングなどで状態の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望やニーズを把握し、ご家族の意向を確認。ご家族にもご本人の現状をお伝えし状況の変化を理解して頂ける様努めている。事業所ミーティングでは利用者ごとに毎回話し合いを持ちケアの方向性を確認する場面を設けている。	「ケアワーカー日誌」「夜勤日誌」を記録し、利用者の日常情報を共有している。全員参加による事業所ミーティングでは、カンファレンス内容を「確認事項」として事前に配布し、職員個々の意見をまとめて、モニタリング・介護計画の作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は詳細に記録するよう努めている。職員が自由に記入できる申し送りノートを活用し情報共有を行っている。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応している。買い物同行、お墓参り外出、自宅一時帰宅など個別のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりの地域資源を十分に把握出来ているかと言う点については全ご利用者把握は不足している部分も多いと感じる。入所後もご家族からの情報など拾える情報については聞き取り、本人との関わりにつなぐ努力はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医を担当医としている方もいる。個別に眼科や、脳外科、耳鼻科など専門医の診療を受けている。施設と連携している。	協力医の往診(2週間に1回)・看護師の定期的な訪問と、SNSによる連絡環境を整え、常に情報共有と相談や指導を受けることができる。他科受診のための通院は、家族の協力を得ながら、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師の助言を受け、健康観察や医療連携を図っている。また外部訪問看護師から対象ご利用者のケアについて助言を得たり、健康状態の報告、医師からの指示など共有し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供、入院期間中の病院との連携、退院カンファレンスなど医療との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、看取りに付いてのケアの説明をし、同意書を頂いている。以降も状態の変化ごとにその時々のお気持ちに添えるよう意向確認を行い対応している。	入居時に「看取りに関する指針」を示し、事業所での対応を説明し、同意を得ている。入居後は利用者の状態をみながら再度説明し、家族の意向に沿って対応している。管理者・職員は、定期的に研修を行い、適切な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修で事故、病変時の対応に付いては研修を実施している。個別に救命講習の受講をしている。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害訓練を実施している。火災報知器の通報訓練、施設外への避難訓練も行っている。地域連携についてはコロナ禍において実施がされておらず取り組みに至っていない。	災害対策訓練は、年2回テーマを決めて実施し、実施後は評価と課題を整理している。備蓄品は5日分を目途に管理し、屋根にはソーラー発電システムが敷設されて、停電時の電源確保ができる設備を整えている。	訓練実施後に評価や課題を整理していますが、課題改善には次回訓練への継続が必要なことから、継続した訓練計画実践を期待します。令和5年度末までの災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、地域住民との連携を含めた計画策定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している。言葉のかけ方のマニュアルを作り心がけている。	個人情報保護や写真掲載について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。管理者は、定期的な職員研修と、専門用語の使い方をまとめた「言葉の使い方」を作成し、利用者・家族に配慮した職員の対応を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定、自己選択出来る様生活の中に選択肢を入れる様に取り組んでいる。できる限り速やかに対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その様に対応している。実践するために細やかな日課や業務スケジュールを設けていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その様に対応している。男性の髭剃りは特に意識して清潔を心がけている。女性の身だしなみも化粧や、おしゃれなど継続出来るようにこれまで使用していたメイク道具、アクセサリーなどを持ち込んでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族から頂いた、里芋やさつまいもを使用しご利用者に味付けをして頂く事も行っている。食事やお菓子作りなどレクリエーションに取り入れている。外食をする際もご利用者の嗜好で選択出来るようにしている。盛り付け、片付けなど一緒に行っている。	隣接する小多機施設には調理専門職員が配置され、GHへも昼食・夕食を提供し、食事の充実に注力している。利用者と共にオープンキッチンを活用して、能力に応じた調理・配膳や片付け、たこ焼きやお菓子作りなどの食事レクリエーションを行い、食事を楽しむ取り組みを実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、食事、水分形態を体調や嚥下状態に合わせて提供している。食事からの栄養が摂取出来ない状態の場合は医師に相談し栄養補助になるものを処方していただく。嗜好品で食欲が出るように提供することもある。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。定期的に歯科往診も受けており必要に応じ治療、指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施している。おむつ使用している方もトイレで排泄が出来る様2名介助でトイレに座っていただく方もいる。必要に応じ排泄チェック表を活用し排泄の状況を確認している。	排泄チェック表の記録を基に、利用者の状態に合わせて介助方法を工夫しながら、トイレ利用を支援している。居室ベッドには「ねむりスキャン」を設置してベッド就寝時の睡眠の状況や起床状態を把握し、昼寝時や夜間の安全な対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握する様努めている。特に排便の時間などは習慣化されている事が多いためオムツ使用の方でもトイレに座る時間を設けている。また水分や活動量もあわせて予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日はあるが、個別に応じて入浴回数、入浴時間、入りたいタイミングで対応している。毎日の方、就寝前に入る方、その時々での発言で入浴をする方もいる。ご家族の協力を得て入浴する方もいる。	週2回を基本として、時間帯を決めず、利用者の好みの時間やタイミングに合わせた入浴を支援している。入浴剤やバスボール作りなど、楽しく入浴できる工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間など設けておらず、ご自分のペースで生活されている。個人の生活スタイルや体調にあわせて休んで頂いている。日中も居室やフロアで自由に過ごしているのが日常。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個人のケースファイルに閉じており職員がいつでも確認出来る様にしている。新しく加わる薬や臨時の薬、副作用が考えられるものについては都度情報共有し注意喚起している。居宅療養管理で薬の相談や、指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体能力に合わせて役割が持てるようにしている。個別に嗜好品の買い物支援や外出支援を行ったり、地域の介護予防教室に参加するなどしている。天気の良い日は施設周辺の散歩や外気浴をし気分転換を図る。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日、その時のご意向に添った支援を心がけている。ご家族協力のもと、一時帰宅や、外食を楽しむこともある。お墓参りへ行くことも支援している。	コロナ禍による行動制限がある中でも、家族や地域の協力を得ながら、外食・買い物や地域行事の参加、生家へのドライブ、近隣の散歩など、利用者個々の状態と希望に合わせた外出を工夫して、支援を継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約上金銭は立替を基本としている。個別に所持金を持たれている方は同意書をいただいで上で所持し、嗜好品や生活用品の購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に行っている。個人で携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい日差し、強い日差しなど時間、季節によりレースカーテンで調整している。不快な臭いが無いよう清潔を心掛けている。季節の野菜を植えて育て、収穫すること、飾りなど空間演出も行っている。	季節行事に合わせて室内装飾を工夫し、居心地の良い環境作りに配慮している。日中過ごす席は固定せずに、利用者が好きな場所で過ごしている。感染対策として、常時換気や「1ケア1消毒」を心掛け、清潔な環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の固定はしておらず、その日、その時に着席した場所で過ごしている。ソファなどくつろぐ空間もある。1階2階の行き来は自由に親しい方との交流も図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使い慣れた物、大切にしていたもの、写真など馴染みのものを持ち込まれている。	洗面台とベッドがある居室には、使い慣れた家具や馴染みの品等を持ち込み、利用者の状態に配慮した利用者好みの居室作りを支援している。居室には利用者と相談した表札をかけている。こまめな換気に留意し、清潔な居室作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は家庭に近い落ち着いた配色になっており施設感を出さない工夫をしている。居室の表札など混乱を招く方には表示の工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290600143		
法人名	有限会社ハーベストライフ		
事業所名	グループホームみのり天神原		
所在地	静岡県三島市加茂川町4082番地の3		
自己評価作成日	令和5年1月18日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2290600143-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念『みのりある最良の生活を収穫する』を掲げ、一人ひとりの個性や価値観を尊重し「役割や出番」を発揮出来る場面作りを心がけている。開設から2年が経過。コロナ禍での生活で従来のグループホームの自由度や柔軟な対応には至らないが、感染状況を見ながら対策をとり外出の機会やご家族、地域との交流など取り組んでいる。法人内研修も定期的に開催され、認知症ケアや高齢者虐待などの学ぶ機会も多い。外部研修への参加も実施し職員の質の向上を目指している。地域との交流も地域包括支援センターや自治会と協力のもと、実施の機会を設けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みのりある最良の生活を収穫する」を運営理念とし、ひとりひとりの個性と価値観を尊重しながら役割や出番を発揮出来る場を提供する様努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染状況を見ながら今年度は、地域の伝統、梯子乗りや子供会のしゃぎりなど交流場面を持つ事が出来た。地域包括支援センター主催の介護予防教室を施設の交流室を会場にし地域の方と共に参加する事が出来た。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で認知症に関わる相談会や、講話、若年性認知症の方の個別会議への参加。また若年性認知症の方の活動の場として施設を開放している。会社主催の認知症カフェも実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において顔を合わせて会議を開催する機会が少ないが、書面で報告を実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	三島市内のグループホーム連絡会が3ヶ月に一度開催され市担当者と情報共有を行う事がある。また運営推進会議、事故報告、各相談事項など話をする機会がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修や、高齢者虐待など研修を実施しており職員も理解している。玄関や、居室の窓などは自由に開閉出来るようになっている。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束の研修や、高齢者虐待など研修を実施しており自身や、職場で不適切ケアが行われていないか振り返る機会を設けている。不適切なケアのチェックリストを活用している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ各制度の提案を行っている。職員の学習は外部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、日々の中でのご意見、ご要望に付いてはご家族、ご利用者から頂いており事業所内、社内管理者会議で共有。改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に代表者、管理者と話をする機会があり、職員の意見を聞く機会が多い。必要に応じて申し送り、ミーティング、面談で意見を得た内容は管理者会議で議題として話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的にキャリアパスで評価している。個々のキャリア形成にあつた教育も実施している。家庭の状況や、心身の状態に応じ労働条件や勤務形態についても配慮、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。未経験職員も多いため、必要に応じ外部実務者研修や、認知症介護実践者研修への参加、社内研修の実施。必要に応じ実技など個別に指導している。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加により交流機会はある。今の時代ではZOOMなどでオンライン上の研修にも参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の選択をする際は不安を抱えている方が多い。その様な際は日中の施設利用体験をし、施設内の様子や、雰囲気を感じて納得して入所される機会を提供する事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談、施設見学でご家族のお話を伺い不安なこと、不明な事、これまでのお困りごとなど聞く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の選択で施設見学に来られた際には、ご自宅での状況とお困りの場面などお話を伺いながら在宅サービスや、小規模多機能、他入所施設のサービス形態など提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご自分で行っていただくようにし、自発的な行動も見守る様に心がけている。職員の仕事の手伝いをして頂く事もあり、ご利用者に協力を求める場面も日常的にある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状況によるが、入浴支援などご家族に協力頂いている方もいる。外出支援や買い物代行等ご利用者が必要とされる場面ではご家族の協力を頂いている。ご利用者の気持ちが不安な際は、電話や面会を行い支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において機会は減っているが、馴染みの人が施設を訪れてくださる事、電話交流を図る機会、スタッフとお墓参りに出かける機会もある。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の交流はご本人の意思により1階2階の制限無く自由に行き来して親しい関係作りを行うよう支援している。利用者間での助け合いの場面もある。席の場所など固定化せずにその時々で過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じ相談、支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりその時々のお思いや、意向に添えるよう会話や、状況から意向を把握する様に努めている。ミーティングではひとりひとりの意向や、生活状況など職員間で共有する機会を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの実施、ご家族やご本人、他サービス事業所などから情報を収集している。入所後もご本人やご家族との会話の中から情報が膨らむ。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。朝、夕の申し送り、業務ミーティングなどで状態の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望やニーズを把握し、ご家族の意向を確認。ご家族にもご本人の現状をお伝えし状況の変化を理解して頂ける様努めている。事業所ミーティングでは利用者ごとに毎回話し合いを持ちケアの方向性を確認する場面を設けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は詳細に記録するよう努めている。職員が自由に記入できる申し送りノートを活用し情報共有を行っている。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応している。買い物同行、お墓参り外出、自宅一時帰宅など個別のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりの地域資源を十分に把握出来ているかと言う点については全ご利用者把握は不足している部分も多いと感じる。入所後もご家族からの情報など拾える情報については聞き取り、本人との関わりにつなぐ努力はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医を担当医としている方もいる。個別に眼科や、脳外科、耳鼻科など専門医の診療を受けている。施設と連携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師の助言を受け、健康観察や医療連携を図っている。また外部訪問看護師から対象ご利用者のケアについて助言を得たり、健康状態の報告、医師からの指示など共有し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供、入院期間中の病院との連携、退院カンファレンスなど医療との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、看取りに付いてのケアの説明をし、同意書を頂いている。以降も状態の変化ごとにその時々のお気持ちに添えるよう意向確認を行い対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修で事故、病変時の対応に付いては研修を実施している。個別に救命講習の受講をしている。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害訓練を実施している。火災報知器の通報訓練、施設外への避難訓練も行っている。地域連携についてはコロナ禍において実施がされておらず取り組みに至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している。言葉のかけ方のマニュアルを作り心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定、自己選択出来る様生活の中に選択肢を入れる様に取り組んでいる。できる限り速やかに対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その様に対応している。実践するために細やかな日課や業務スケジュールを設けていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その様に対応している。男性の髭剃りは特に意識して清潔を心がけている。女性の身だしなみも化粧や、おしゃれなど継続出来るようにこれまで使用していたメイク道具、アクセサリーなどを持ち込んでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族から頂いた、里芋やさつまいもを使用しご利用者に味付けをして頂く事も行っている。食事やお菓子作りなどレクリエーションに取り入れている。外食をする際もご利用者の嗜好で選択出来るようにしている。盛り付け、片付けなど一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、食事、水分形態を体調や嚥下状態に合わせて提供している。食事からの栄養が摂取出来ない状態の場合は医師に相談し栄養補助になるものを処方していただく。嗜好品で食欲が出るように提供することもある。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。定期的に歯科往診も受けており必要に応じ治療、指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施している。おむつ使用している方もトイレで排泄が出来る様2名介助でトイレに座っていただく方もいる。必要に応じ排泄チェック表を活用し排泄の状況を確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握する様努めている。特に排便の時間などは習慣化されている事が多いためオムツ使用の方でもトイレに座る時間を設けている。また水分や活動量もあわせて予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日はあるが、個別に応じて入浴回数、入浴時間、入りたいタイミングで対応する様にしている。毎日の方、就寝前に入る方、その時々発言で入浴をする方もいる。ご家族の協力を得て入浴する方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間など設けておらず、ご自分のペースで生活されている。個人の生活スタイルや体調にあわせて休んで頂いている。日中も居室やフロアで自由に過ごしているのが日常。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個人のケースファイルに閉じており職員がつど確認出来る様にしている。新しく加わる薬や臨時の薬、副作用が考えられるものについては都度情報共有し注意喚起している。居宅療養管理で薬の相談や、指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体能力に合わせて役割が持てるようにしている。個別に嗜好品の買い物支援や外出支援を行ったり、地域の介護予防教室に参加するなどしている。天気の良い日は施設周辺の散歩や外気浴をし気分転換を図る。		

静岡県(グループホームみのり天神原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日、その時のご意向に添った支援を心がけている。ご家族協力のもと、一時帰宅や、外食を楽しむこともある。お墓参りへ行くことも支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約上金銭は立替を基本としている。個別に所持金を持たれている方は同意書をいただいで上で所持し、嗜好品や生活用品の購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に行っている。個人で携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい日差し、強い日差しなど時間、季節によりレースカーテンで調整している。不快な臭いが無いよう清潔を心掛けている。季節の野菜を植えて、収穫すること、飾りなど空間演出も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の固定はしておらず、その日、その時に着席した場所で過ごしている。ソファなどくつろぐ空間もある。1階2階の行き来は自由で親しい方との交流も図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使い慣れた物、大切にしていたもの、写真など馴染みのものを持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は家庭に近い落ち着いた配色になっており施設感を出さない工夫をしている。居室の表札など混乱を招く方には表示の工夫をしている。		